

元旦祭（一月一日）

春例大祭【祈年祭】（四月第一日曜）

茅乃輪くぐり
【夏越の大祓】

(六月三十日～七月七日)

秋大祭（十月体育の日）

七五三詣（十月中旬～十一月下旬）

菊祭（十一月中旬）

大袂【年越の大袂】（十二月三十一日）

月次祭（毎月一日、十五日）

社務所 埼玉県所沢市山口千八百四十九番地

TEL 〇四二九三二八八八八

FAX 〇四 (二九三六) 六一六

http://www.geocities.jp/ashishibire/
e-mail n-hikawa@taupe.plala.or.jp

中氷川神社

武蔵國三氷川中乃社
延喜式内祈年國幣社



御祭神

素戔鳴命（すさのをのみこと）厄除開運神、縁結神、農林神、勝負神、旅神、生業の祖神
稲田姫命（いなだひめのみこと）〈素戔鳴命の妃神〉良縁縁結神、子授神、安産神、農耕神
大己貴命（おおなむちのみこと）〈大國主神〉開運、商売神、勤勉神、医薬神

七社大神（大山咋命・建御名方命・奥津姫命・大物主命・素戔鳴命・下照姫命・牛御子命）

（山口貯水地の湖底に埋もれた旧勝楽寺村鎮座の七社神社）

神社名

「足立郡大宮（現在のさいたま市）」の武蔵國一の宮氷川神社と、西多摩郡氷川（現在の奥多摩町）の氷川神社「上（かみ）氷川・奥氷川」との中間に鎮座するため、中（なか）氷川神社と呼称されるようになった。

由緒

当社は崇神天皇の朝に創祀せられ、武蔵國造（長官）の崇敬厚く、平安時代に朝廷が編纂した延喜式（国の法律書）神名帳に記載された、祈年國幣社（当時の官社）であった。

中古は、入間・多摩二郡にまたがる九十二ヶ村の総鎮守として、また山口城主にも尊崇され、徳川幕府より社領四石三斗を賜りました。明治維新後は、埼玉県の県社の社格を賜りました。

敗戦直後の昭和二十年十一月連合国軍総司令部（GHQ）は、全国の神社の中より、宮内省雅楽部多忠朝氏の琴を始めとする五人の部員が奏で、氏子の少女四人が浦安舞を舞う、当社の臨時例大祭を視察したことは、当時の日本政府に於いては固唾を飲む重大事でした。

社殿

後鳥羽上皇の御宇に山口領主山口家継が社殿御造営、吉野朝の御宇に山口領主高治が社殿大営繕。正平年中に兵火にかかるも、山口高忠による山口城の再興と共に当社御造営。元禄二年本殿御造営、天保十年本殿上屋御造営、昭和六年から十三年にかけて本殿、幣殿、拝殿、神饌所、回廊等造営及び境内整備。平成九年から十一年にかけて幣殿、拝殿、神楽殿、社務所等造営及び境内改修。

御本殿は出雲大社造（心の御柱二十五尺）、古御本殿は元禄二年造立の春日造鱗葺社殿

合祀

陣屋・大西の稲荷社、谷戸・新田・荒久の氷川社。椿峰の八坂社・山王峰の日枝社・弁天前の市杵島姫社・大塚の浅間社を合祀。昭和四年十月六日に山口貯水地の湖底に埋もれた旧勝楽寺村（朝鮮半島より日本に渡来した百済人・高麗人の居住した地と伝えられている）に鎮座していた七社神社（七社権現Ⅱ七社大明神）を合祀。

御宝物

有栖川宮一品幟仁親王御筆扁額（明治十一年十二月）

秀吉禁制書及光忠作宝剑（天正十八年四月）

一木造蔵王権現立造（所沢市指定有形文化財）

土器・石器・板碑・棟札・古鏡・古文書等

山口貯水地湖底の往古の写真